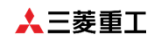


# 2024年度第2四半期決算説明資料

2024年11月5日

三菱重工業株式会社

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.



皆さん、こんにちは。CFOの小澤です。

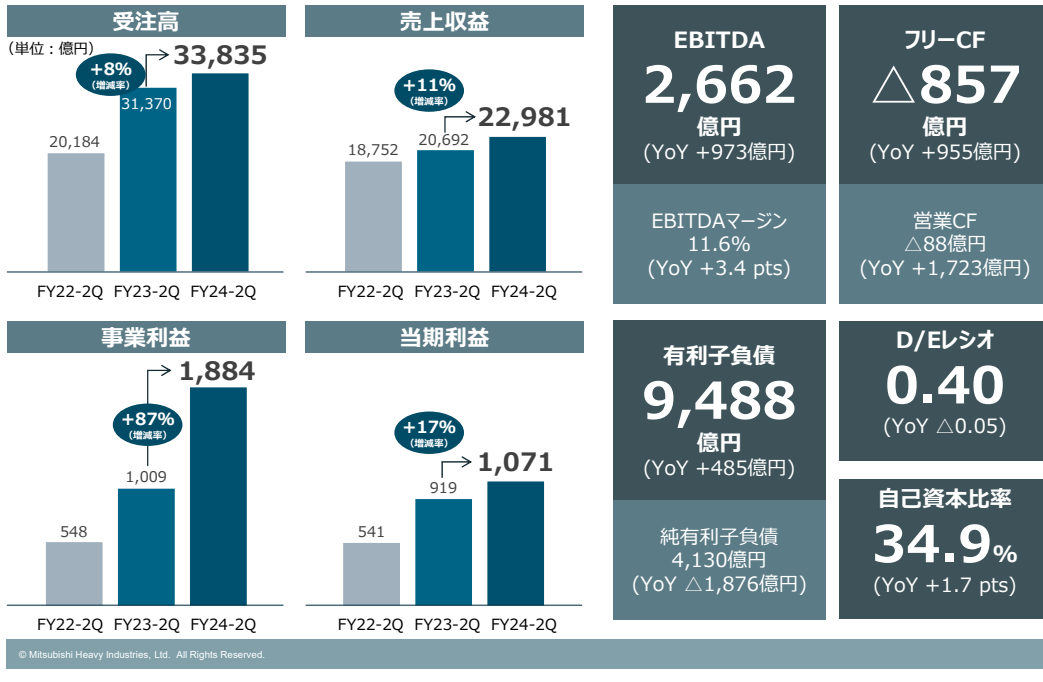
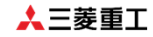
それでは、第2四半期決算の概要について説明します。

<b>1. 決算のポイント</b>	<b>3-5</b>
<b>2. 2024年度第2四半期決算実績</b>	<b>6-14</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 連結経営成績サマリー</li><li>・ 連結財政状態、キャッシュ・フロー</li><li>・ 事業利益増減分析</li><li>・ セグメント情報</li></ul>	
<b>3. 2024年度業績見通し</b>	<b>15-18</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 業績見通しサマリー</li><li>・ セグメント情報</li></ul>	
<b>4. 補足資料</b>	<b>19-24</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 参考データ</li><li>・ セグメント別の状況</li></ul>	

資料の構成は、目次に記載のとおりです。

# 1. 決算のポイント

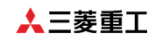
## 2024年度第2四半期決算実績



初めに、決算実績の全体概要について説明します。

このページでは、主要な財務指標の実績を記載しています。

## 2024年度第2四半期決算実績ハイライト



- **受注高：33,835億円**（前年同期比：+2,464億円）  
エナジー、プラント・インフラ、物流・冷熱・ドライブシステムの3セグメントが増加。  
前年同期に複数の大型案件を受注した防衛・宇宙は減少したが、エナジーではGTCC  
や航空エンジン、プラント・インフラでは製鉄機械が受注を伸ばした
- **売上収益：22,981億円**（前年同期比：+2,288億円）  
エナジー、プラント・インフラ、航空・防衛・宇宙の3セグメントが前年同期比増収。  
特に防衛・宇宙が、航空機・飛昇体を中心に売上収益を大きく伸ばした
- **事業利益：1,884億円**（前年同期比：+874億円）  
エナジー、プラント・インフラ、航空・防衛・宇宙の3セグメントが前年同期比増益。  
売上増・利益率改善、為替円安影響等が寄与し、事業利益は前年同期比87%増の  
1,884億円となった
- **当期利益：1,071億円**（前年同期比：+151億円）  
事業利益が大きく増加したことから、期末日レートの円高に振れ為替換算差損が生じた  
ものの、前年同期比17%増の1,071億円となった

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

このページには、主要な財務指標の実績に関する要旨を記載しています。

当四半期は、第1四半期に引き続き総じて計画通り順調に推移しました。

受注高、売上収益、事業利益のいずれも前年同期を上回りました。受注高は、一昨年度22年度から昨年度23年度にかけて大きく増加しましたが、当期は更にそれを上回りました。

23年度の受注増を牽引した防衛関係は減少したものの、GTCCや航空エンジン、製鉄機械などが大きく伸びました。従前の年間見通しは5兆8000億円としていましたが、その想定を上回る進捗となっていることから、今回受注見通しを6兆円に引き上げています。

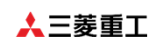
事業利益・当期利益とも前年同期から増益、特に事業利益は、後ほど9ページで説明しますが、87%の増益となりました。

受注高・売上収益・各利益項目は、いずれも上半期としては過去最高値となりました。

## 2. 2024年度第2四半期決算実績

このページ以降は、決算実績をもう少し詳細に記載しています。

## 連結経営成績サマリー

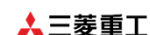


(単位：億円)	FY2023-2Q (利益率)	FY2024-2Q (利益率)	増減 (利益率)	(増減率)
受注高	31,370	33,835	+2,464	(+7.9%)
売上収益	20,692	22,981	+2,288	(+11.1%)
事業利益	1,009 (4.9%)	1,884 (8.2%)	+874 (+3.3 pts)	(+86.7%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	919 (4.4%)	1,071 (4.7%)	+151 (+0.3 pts)	(+16.5%)
EBITDA	1,689 (8.2%)	2,662 (11.6%)	+973 (+3.4 pts)	(+57.7%)
フリー・キャッシュ・フロー	△1,812	△857	+955	

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

このページの数表は繰り返しとなりますので、説明は省略します。

## 連結財政状態、キャッシュ・フロー



連結財政状態 (単位：億円)	FY23末	FY24-2Q末	増減
売上債権（営業債権及び契約資産）	16,924	16,919	△4
棚卸資産	9,745	11,014	+1,268
その他流動資産	7,529	9,080	+1,551
（うち現金及び現金同等物）	(4,312)	(5,358)	(+1,045)
固定資産	11,747	11,662	△84
投資等	16,615	16,093	△522
<b>資産合計</b>	<b>62,562</b>	<b>64,770</b>	<b>+2,208</b>
営業債務	9,588	8,087	△1,501
契約負債	10,951	12,567	+1,616
その他	11,125	10,855	△270
有利子負債	7,289	9,488	+2,198
資本	23,606	23,770	+164
（うち親会社の所有者に帰属する持分）	(22,446)	(22,588)	(+142)
<b>負債及び資本合計</b>	<b>62,562</b>	<b>64,770</b>	<b>+2,208</b>
<b>キャッシュ・フロー</b> (単位：億円)	<b>FY23-2Q</b>	<b>FY24-2Q</b>	<b>増減</b>
営業キャッシュ・フロー	△1,812	△88	+1,723
投資キャッシュ・フロー	0	△768	△768
フリー・キャッシュ・フロー	△1,812	△857	+955

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

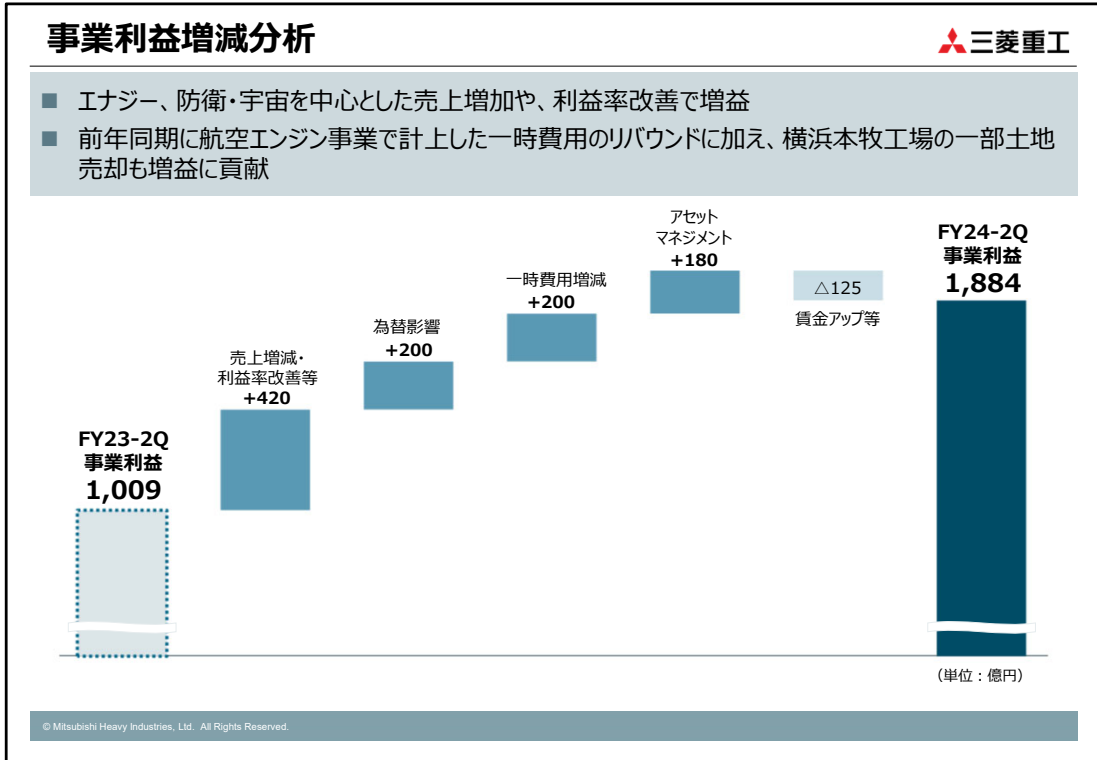
このページには、バランスシートおよびキャッシュ・フローを記載しています。

総資産は、23年度末から2,208億円増加の6兆4,770億円となりました。9月末の為替レートが円高に振れていたことから、外貨建て資産の換算影響が圧縮サイドに800億円弱あり、その影響を除くと、実質的には約3,000億円の増加となります。

増加の内訳は、以下は為替影響を除外した数字で、現預金が約1,000億円弱、棚卸資産が約1,500億円となりました。棚卸資産の増加は、当社の例年の動きであり、事業規模が拡大局面にあることも踏まえ、通常の変動の範囲内と評価しています。

キャッシュ・フローでは、投資キャッシュ・フローが都内のオフィスビル取得費用の支出などもあり大きく増加した一方で、営業キャッシュ・フローが利益増に加え運転資金増加幅が前年同期比で抑制出来たこともあり大きく改善したことなどから、フリーキャッシュ・フローとしては前年同期対比で955億円の改善となりました。





このページでは、前年同期対比での事業利益の増減要因を説明しています。

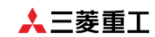
一番左端の棒グラフ23年度第2四半期累計の事業利益は1,009億円でした。

当期は賃上げ影響等による費用増という減益要因はあったものの、その他の項目でも着実にプラスサイドを積み上げることが出来ました。各事業での売上増加、プロダクトミックス・利益率改善の効果などに加え、期中平均で為替が円安傾向で推移したこともあり、当期の事業利益は1,884億円となりました。

ここで為替の影響について補足説明します。このグラフにも記載あるとおり、事業利益段階では、対象期間の平均レートが前年同期比で円安水準に推移したことから増益サイドに効いています。これが「為替影響+200億円」と表示しているものです。

一方、営業外の為替差損益、これには計上時と入出金時との差額のほかに、期末時の換算差額が含まれますが、23年度上期は約200億円の利益サイド、24年度上期は300億円超の損失サイドとなりました。前年同期比で金融収益・費用の数字が大きく動いているのはこの要因によるものです。また、この影響により、事業利益の増加の割には当期利益の増加幅が小さくなりました。

## 決算実績 セグメント別内訳



	受注高			売上収益			事業利益		
	<sup>(※1)</sup> FY23 2Q	FY24 2Q	増減	<sup>(※1)</sup> FY23 2Q	FY24 2Q	増減	<sup>(※1)</sup> FY23 2Q	FY24 2Q	増減
(単位：億円)									
エネルギー	10,811	13,067	+2,256	7,609	8,321	+712	417	1,032	+615
プラント・インフラ	4,227	5,994	+1,766	3,670	3,791	+121	160	281	+120
物流・冷熱・ ドライブシステム	6,500	6,576	+76	6,333	6,328	△5	367	269	△97
航空・防衛・宇宙	9,994	8,021	△1,972	3,189	4,317	+1,127	274	440	+165
その他及び 全社又は消去	△162	175	+338	△109	222	+332	△210	△138	+71
合計	31,370	33,835	+2,464	20,692	22,981	+2,288	1,009	1,884	+874

(※1) FY23実績は、2024年4月1日のGXセグメント新設の組織再編の影響を2023年度に遡り反映した金額を記載

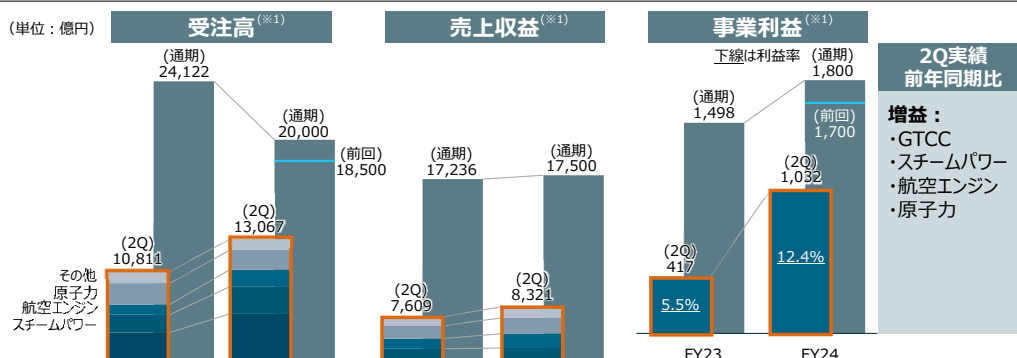
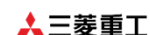
© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

このページには、セグメント別の受注高、売上収益、事業利益をまとめて表示しています。

次のページ以降で、セグメント別に説明します。

なお、今年4月のGXセグメント設立の組織変更により、公表セグメントの入り繰りが生じていますが、これについては23年度第1四半期の数字を遡及修正して表示しています。

## セグメント別決算実績 <エネルギー>



決算実績・通期見通しのポイント

- GTCCは主に米州で受注が大幅に増加。採算改善等により増益
- スチームパワーは採算改善等により増益
- 航空エンジンは売上増に加え前年同期に計上した一時費用のリバウンドにより増益
- 原子力は堅調に推移
- 受注、事業利益について、セグメントの進捗状況を踏まえて、通期見通しを上方修正

(※1) FY23実績は、2024年4月1日のGXセグメント新設の組織再編の影響を2023年度に遡り反映した金額を記載

主な事業	受注高		売上収益	
	FY23-2Q	FY24-2Q	FY23-2Q	FY24-2Q
GTCC	6,489	7,813	3,521	3,648
スチームパワー	1,264	1,911	1,836	1,765
航空エンジン	715	1,192	707	1,008
原子力	1,501	1,385	929	1,109

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

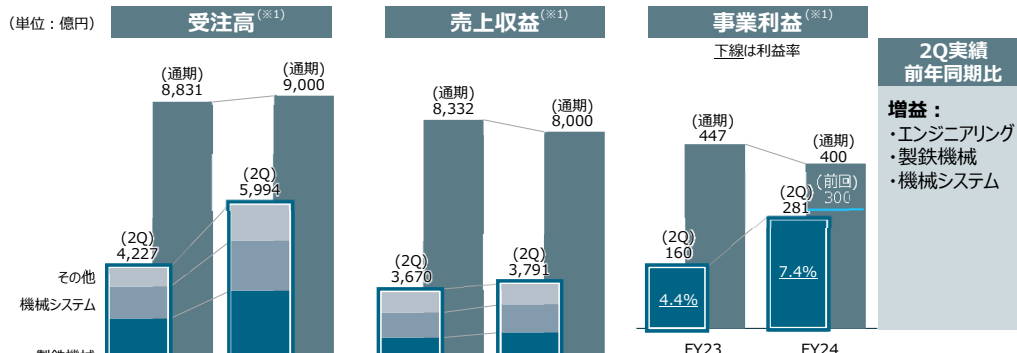
このページには、エネルギーの状況を記載しています。

受注高・売上収益・事業利益ともに前年同期比で増加し、年度見通しに対しても順調な立ち上がりとなりました。

特にGTCCの受注は昨年度からの好調を継続しています。  
スチームパワーは、石炭焚プラントの新設が無くなったことなどから想定どおり減収でしたが、サービス工事が堅調なこともあり、増益となりました。  
航空エンジンは、マーケットの回復により、部品販売及びメンテナンスの受注・売上が増加しました。

年間見通しについて、ここまでの順調な進捗を踏まえ、受注高を1,500億円上方修正し2兆円に、事業利益を100億円上方修正し1,800億円に変更しています。

## セグメント別決算実績 <プラント・インフラ>



### 決算実績・通期見通しのポイント

- エンジニアリングは採算改善等により増益
- 製鉄機械は受注が好調。為替円安等で増収増益
- 機械システムは受注、売上、利益ともに増加
- その他では環境設備の受注が増加
- 事業利益について、セグメントの進捗状況を踏まえて、通期見通しを上方修正

(※1) FY23実績は、2024年4月1日のGXセグメント新設の組織再編の影響を2023年度に遡り反映した金額を記載

主な事業	受注高		売上収益	
	FY23-2Q	FY24-2Q	FY23-2Q	FY24-2Q
エンジニアリング	511	487	572	589
製鉄機械	2,269	3,070	1,719	1,849
機械システム	890	1,386	695	778

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

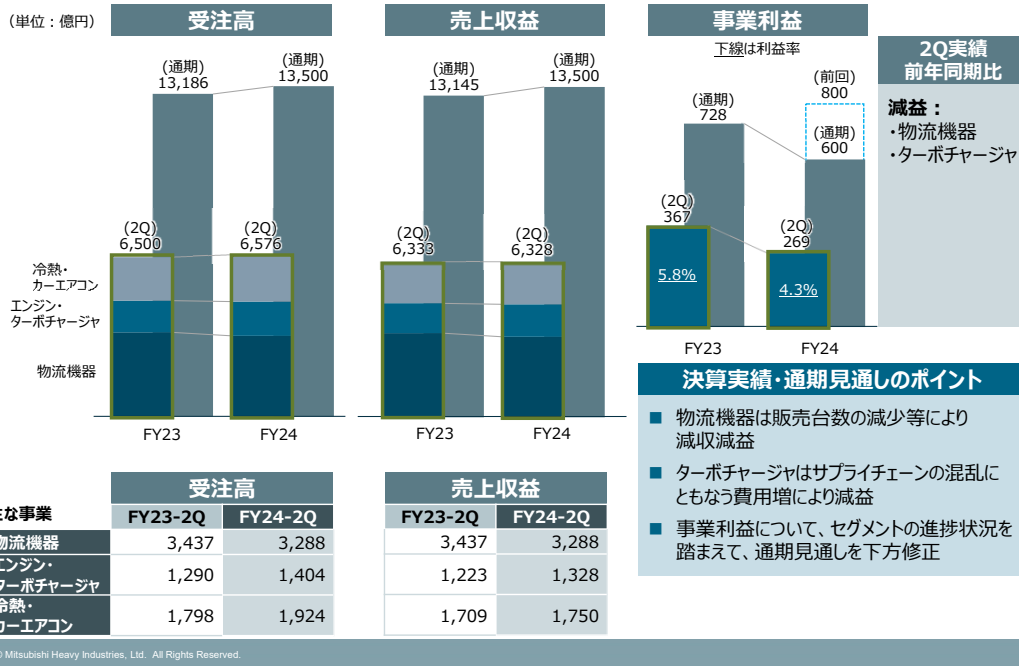
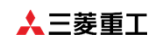
このページには、プラント・インフラの状況を記載しています。

このセグメントも受注高・売上収益・事業利益とも前年同期比で増加、年度見通しに対して順調な立ち上がりとなりました。

受注高は、製鉄機械・環境設備・機械システムにおいて大型受注があったことが寄与しました。

年間見通しについて、ここまでの進捗を踏まえ、事業利益を100億円上方修正し400億円に変更しています。

## セグメント別決算実績 <物流・冷熱・ドライブシステム>



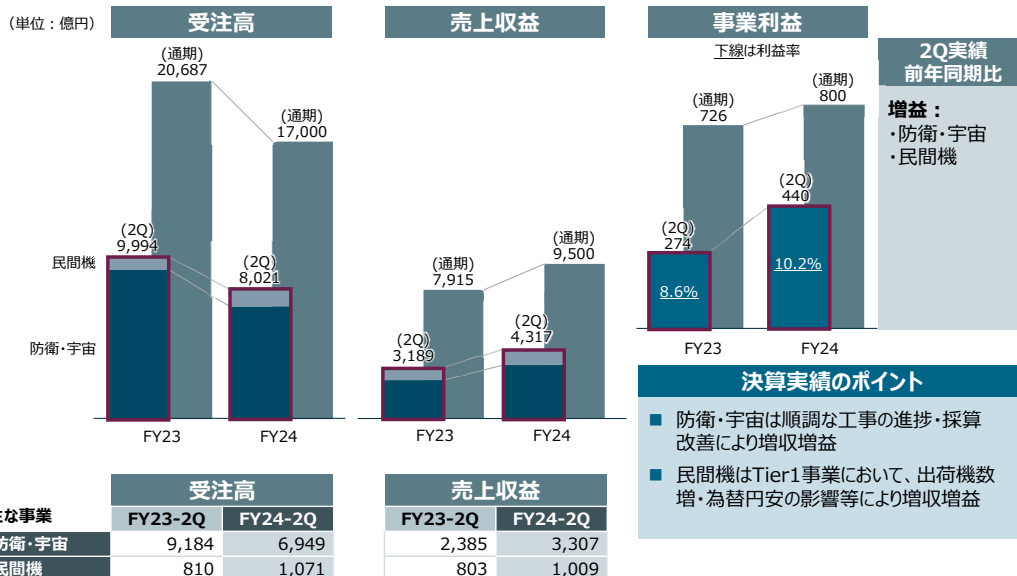
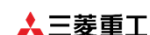
このページには、物流・冷熱・ドライブシステムの状況を記載しています。

受注高・売上収益は、セグメント全体でほぼ前年同期並みとなっていますが、為替円安の影響を考慮すると実質的には減収です。

ターボチャージャは、サプライヤー起因で一部に生産混乱が生じた影響で減益となりました。物流機器は主に海外での販売台数減少等により減収減益となりました。

年間見通しについて、ここまでの進捗を踏まえ、事業利益を200億円下方修正し600億円に変更しています。

## セグメント別決算実績 <航空・防衛・宇宙>



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

このページには、航空・防衛・宇宙の状況を記載しています。

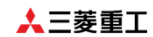
受注高は、前年同期に防衛関連の大型案件を複数受注した反動で減少していますが、それでも従前と比較すれば高水準であり、年度見通しに対しても順調な進捗を見せています。

売上収益は、積みあがった受注残の消化を着実に進めているところです。  
事業利益は、増収効果に加え、為替円安の影響もあり大幅な増益となりました。

### 3. 2024年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

## 業績見通しハイライト



### ■ 受注高 : 60,000億円 (前回見通し比 : +2,000億円)

	前回見通し	今回見通し	増減
エネルギー	18,500億円	20,000億円	+1,500億円
その他及び全社又は消去	0億円	500億円	+500億円

### ■ 事業利益 : 3,500億円 (前回見通し比 : ±0億円)

	前回見通し	今回見通し	増減
エネルギー	1,700億円	1,800億円	+100億円
プラント・インフラ	300億円	400億円	+100億円
物流・冷熱・ドライブシステム	800億円	600億円	△200億円

### ■ 売上収益、当期利益、フリー・キャッシュ・フロー及び配当金は、前回公表より変更なし

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

このページには、24年度の業績見通しに関する要旨を記載しています。今回、受注高と事業利益を見直しておりますが、既に説明した内容と重複するため、説明は省略します。

以上をもちまして、私から決算および業績見通しの説明を終了します。引続き、CEOの泉澤より説明します。



社長の泉澤です。私からは、今年度の見通しと24事計の進捗状況についてお話しします。

まず、今年度の見通しを概観いたします。

下期も、地政学リスクや物価高、為替の変動など、引き続き事業環境は不透明ですが、受注は獲得できているため、着実に遂行することで、24年度計画の達成は可能であると考えています。

受注高については、底堅い需要が見込まれているガスタービン、原子力、防衛に加えて、製鉄機械や航空エンジン等が好調であり、厳しい事業環境に直面している事業もありますが、年間見通しを上方修正することとしました。

次に、セグメント別に事業規模と主な事計施策の進捗状況を説明します。

エネルギーでは、GTCCで、足元ではグローバルで40GW/年の需要があり、26年度までに50GW/年に拡大すると予想しています。市場は、今後しばらくは底堅く推移していくと考えています。これは、中東での脱石油を含む燃料転換需要に加え、北米でのデータセンター向け安定電源需要の影響と考えています。

当社においても、北米・中東を中心に商談は増加しており、これら旺盛な需要に対応するため、事業遂行能力を強化し、競争優位を確かなものにするための施策を進めています。具体的には、人的リソースを26年度までに1割増員するとともに、ブレードの生産ラインの能力増強や、水素・アンモニア等脱炭素対応ガスタービン開発等に取り組み、トップシェアを維持します。

原子力は、再稼働したPWR（※1）の安定運転の支援に加えて、BWR（※2）プラントの再稼働支援、さらにはリプレース、将来炉開発等、原子力を活用推進する国の方針に対応していきます。このため、人的リソースを26年度までに1割増員し、生産設備と研究開発への投資を3割増やすなど、事業遂行能力強化に取り組んでいます。

航空エンジンは、21事計で着手した内製力の強化や、整備能力の増強を梃子に、世界中で増大するMRO（※3）ニーズに対応しています。

プラント・インフラでは、製鉄機械で、カーボンニュートラル実現に向けたグリーンスチールメイキングへの投資が加速しています。当面は、グリーンエネルギーの供給制約や課題がある中で、電炉化や改質ガスを活用したシャフト炉による直接還元等を武器に、拡大している市場に対応します。

また、AIやデジタル技術を活用した新たなサービスの提供も試みています。具体的には、北米で豊富な納入実績のある紙工機械で、DXによるリモートサービスや部品販売を展開しています。また、エンジニアリングでは、Σ SynX Supervision（※4）を活用した走行車両の遠隔監視や保守サービスの統合管理等、お客様のニーズに応える新たなサービスを提供しています。

物流・冷熱・ドライブシステム（LT&D）では、エンジンで、当社が得意とする東南アジア、中国を中心に、データセンター向けの旺盛な需要に対応しています。物流機器は、北米市場に先行きの不透明感があり、LT&Dの今期の見通しは当初想定したよりも厳しい状況にあります。しかし物流機器は、労働力不足と人件費高騰による省人化・自動化ニーズが強く、人と機械との協調をサポートする統合制御システムの開発・実装を進めており、省人化・自動化製品をキーとして、さまざまなパートナーと取り組んでいるところです。

冷熱は、都市化の進展、地球温暖化対策や環境規制強化に伴い需要は堅調であり、自然冷媒・低環境製品の拡充、海外工場の能力向上、販売網の拡充に努めています。

航空・防衛・宇宙では、防衛は、国家安全保障の取り組みの中で事業が急拡大しており、24事計では1兆円規模となる見通しです。このため、人的リソースを大幅に拡充中であり、26年度までに4割増員する予定です。また、生産設備への投資を3割増やすなど、事業遂行能力を強化しています。

宇宙については、昨日、11月4日に、H3ロケット4号機の打ち上げが成功しました。これも皆様のご支援の賜物と考え、あらためて感謝申し上げます。今後は、さらに基幹ロケットの成功実績を積み重ね、打ち上げ輸送サービス事業を拡大していきます。また、将来プロジェクトにも参画し、日本の宇宙事業の発展に寄与していきたいと考えています。

民間機は、上期決算までの為替影響に加え、費用削減効果等で期首計画を上回る実績でしたが、今後の見通しについては、ボーイング社のストライキの影響を見極めていきます。

最後に、成長領域についてお話しします。

水素・アンモニア・CO2回収は、社会実装に向けた投資回収の予見性が不透明なため、想定よりも案件の具体化が遅れています。しかしながら、中長期的な脱炭素化への取り組みは必須であり、市場の立ち上がりを見据え、研究開発やシステム実証を進めるとともに、各地域での実証プロジェクトへの参画や、Exxon Mobil社とのアライアンスなど、バリューチェーン構築に向けた仲間づくりを進めています。

データセンターは市場が急成長しており、すでにターボ冷凍機や非常用発電機を中心に旺盛な需要に対応しています。先ほどお話ししたように、電力需要増大に伴うGTCCの引き合いも増加しています。今後はワンストップで対応してほしいというお客様のご期待に沿うべく、司令塔となる事業責任者からサービスマンまでの一貫した遂行体制を構築していきます。製品面でも、開発中の高効率冷却設備や脱炭素電源等を提供する機会も増えており、実証を進め、市場投入を早めるべく対応していきます。

これらを遂行するための人的基盤と技術基盤の強化・充実にしても、24事計のレンジの先まで見据えて着実に進めているところです。

私からの説明は以上とさせていただきます。

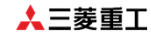
(※1) PWR：Pressurized Water Reactor, 加圧水型軽水炉

(※2) BWR：Boiling Water Reactor, 沸騰水型軽水炉

(※3) MRO：Maintenance, Repair, Overhaul, 整備・補修・オーバーホール

(※4)  $\Sigma$  SynX Supervision：当社が開発した遠隔状態監視サービス

## 業績見通しサマリー



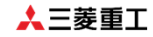
前回公表（2024年8月6日）から変更あり

(単位：億円)	2023年度 (利益率)	2024年度 (利益率)		2023年度比 増減 (利益率)	(増減率)
		前回見通し	今回見通し		
受注高	66,840	58,000	<b>60,000</b>	△6,840	(△10.2%)
売上収益	46,571	49,000	<b>49,000</b>	+2,428	(+5.2%)
事業利益	2,825 (6.1%)	3,500 (7.1%)	<b>3,500</b> (7.1%)	+674 (+1.0 pt)	(+23.9%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	2,220 (4.8%)	2,300 (4.7%)	<b>2,300</b> (4.7%)	+80 (△0.1 pts)	(+3.6%)
ROE	11.1%	10%	<b>10%</b>	△1.1 pts	
EBITDA	4,326 (9.3%)	5,000 (10.2%)	<b>5,000</b> (10.2%)	+673 (+0.9 pts)	(+15.6%)
フリー・キャッシュ・フロー	2,001	△1,000	<b>△1,000</b>	△3,001	
配当 <sup>(※1)</sup>	20円 中間8円/期末12円	22円 中間11円/期末11円	<b>22円</b> 中間11円/期末11円	前提為替レート： 1ドル=145円、1ユーロ=155円	

(※1) 配当（株式分割考慮後）は、2024年4月1日の株式分割（10分割）を踏まえ、2023年度に遡り調整（分割前配当×1/10）した金額を記載

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

## 業績見通し セグメント別内訳



前回公表（2024年8月6日）から変更あり

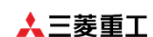
	受注高				売上収益			事業利益				
	FY23 実績	FY24見通し		FY23比 増減	FY23 実績	FY24 見通し	FY23比 増減	FY23 実績	FY24見通し		FY23比 増減	
		前回	今回						前回	今回		
(単位：億円)												
エネルギー	24,122	18,500	20,000	△4,122	17,236	17,500	+263	1,498	1,700	1,800	+301	
プラント・インフラ	8,831	9,000	9,000	+168	8,332	8,000	△332	447	300	400	△47	
物流・冷熱・ ドライブシステム	13,186	13,500	13,500	+313	13,145	13,500	+354	728	800	600	△128	
航空・防衛・宇宙	20,687	17,000	17,000	△3,687	7,915	9,500	+1,584	726	800	800	+73	
その他及び 全社又は消去	12	0	500	+487	△58	500	+558	△575	△100	△100	+475	
合計	66,840	58,000	60,000	△6,840	46,571	49,000	+2,428	2,825	3,500	3,500	+674	

(※1) FY23実績は、2024年4月1日のGXセグメント新設の組織再編の影響を2023年度に遡り反映した金額を記載

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

## 4. 補足資料

## 補足資料 参考データ



### 大型ガスタービン 受注台数・契約残台数

	FY23-2Q	FY23通期	FY24-2Q
米州	1	7	5
アジア	6	9	3
EMEA	-	-	1
その他	-	1	-
受注台数 合計	7	17	9
契約残台数	39	36	36

### 民間航空機 出荷機数

777	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY23	7	11	7	5	30
FY24	6	6	/	/	12

777X	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY23	0	1	3	2	6
FY24	3	3	/	/	6

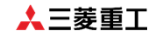
  

787	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY23	9	7	13	14	43
FY24	9	12	/	/	21

### 【参考】中国の協業先企業における受注台数

	FY23-2Q	FY23通期	FY24-2Q
受注台数	9	21	5

## 補足資料 参考データ



### 受注残高

(単位：億円)	FY23-4Q <sup>(※1)</sup>	FY24-2Q
エンジン	42,311	45,672
プラント・インフラ	16,224	17,577
物流・冷熱・ドライブシステム	583	832
航空・防衛・宇宙	24,742	28,144
その他及び全社又は消去	144	163
合計	84,005	92,390

### 未確定外貨

(億通貨単位)	USD	EUR
未確定外貨（事業利益）	15	3
未確定外貨（金融収益費用）	7	2
前提為替レート	145.0	155.0

### 研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位：億円)	FY23-2Q	FY24-2Q	FY24見通し
研究開発費	677	930	2,200
減価償却費	679	778	1,500
設備投資	1,013	868	1,800

### 販売費及び一般管理費

(単位：億円)	FY23-2Q	FY24-2Q
販管費	3,118	3,472

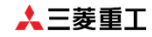
### 為替レート（売上計上平均レート）

	FY23-2Q	FY24-2Q
USドル（円/USドル）	139.6	153.2
ユーロ（円/ユーロ）	150.8	164.5

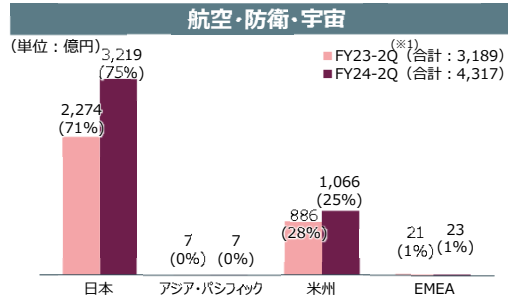
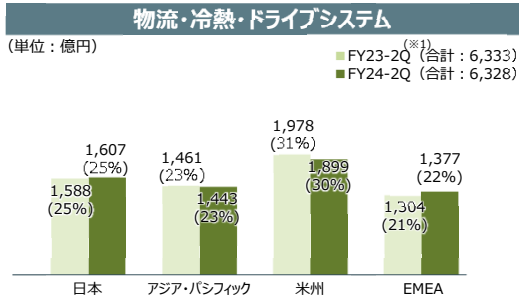
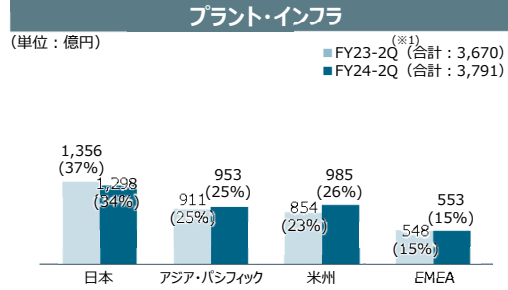
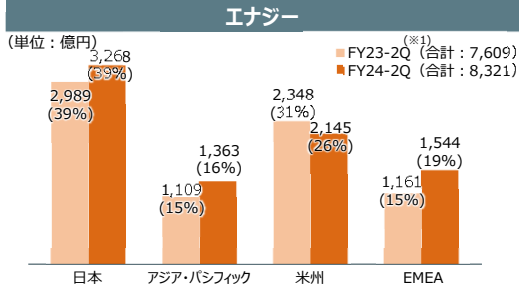
(※1) FY23実績は、2024年4月1日のGXセグメント新設の組織再編の影響を2023年度に遡り反映した金額を記載

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

補足資料 参考データ



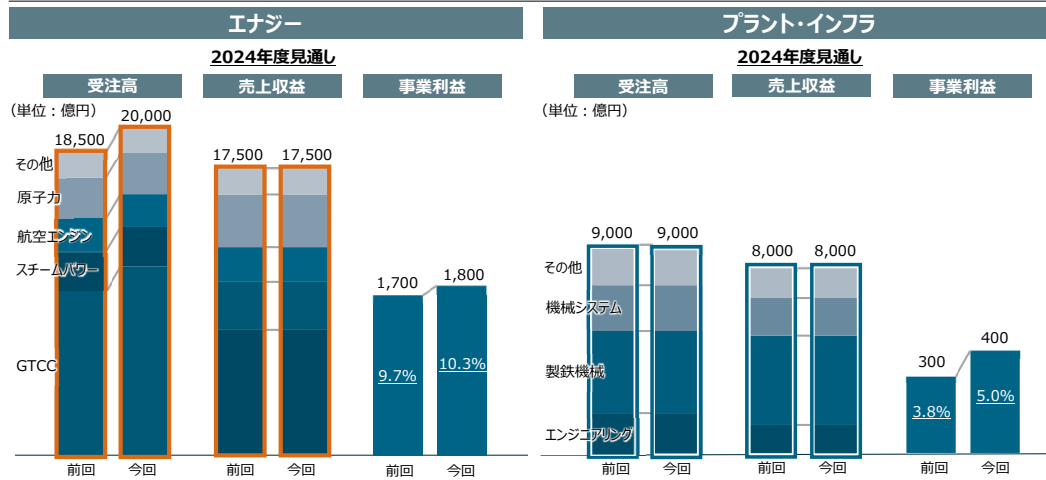
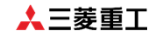
地域別売上高



(※1) FY23実績は、2024年4月1日のGXセグメント新設の組織再編の影響を2023年度に遡り反映した金額を記載



## セグメント別の状況 <エナジー、プラント・インフラ>



### 事業環境・トピック

- GT市場：数年後50~60GW/年レベルまで増加の見通し
- 航空エンジン市場：有償旅客キロ数(RPK)は通期で前年比+10%超成長の見通し
- 原子力：PWR保全工事に加え、BWR再稼働支援中

### 事業環境・トピック

- 製鉄機械市場：グリーンスチールメイキングへの投資が加速、市場拡大が見込まれる

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

## セグメント別の状況 <物流・冷熱・ドライブシステム、航空・防衛・宇宙>

